

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・1時間が60分であることや時間の意味を，長針の動きと合わせて理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・1年「とけい」で，時計を操作したり数直線に表したりして，正午を境に時間をたす学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・ちょうどの時刻をまたいで時間を求める経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・長針を動かして時間を求める学習をしている。

教材研究ノート№2-C-1

≪学習問題≫

午後1時45分から午後2時10分までペンギン

のショーを見ました。

　ショーを見た時間はどれだけですか。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し: 何時も何分も両方違うから時間の出し方が分からない。

→時計を使ったり，数直線をかいてみたりすれば分かりそう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:時計や数直線（時間のものさし）を使って，1時45分から2時10分まで何分あるか調べよう。

③個人追究:時計を動かしたり数直線を使ったりして，めもりをよんで求め，求め方を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どこのめもりで時間を考えているかな？」

→「1時45分から2時10分のまでの長さが時間になっている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「45分なのに15分と10分を合わせて25分でいいのかな？」

→「時刻と時刻の間が2時まで15分で2時から10分になっているから，つなげると25分になる。」

「1時間は60分だから，1時45分から2時までは15分になる。時計の長針を動かすと25分ぶん動く。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・時間は，時刻と時刻の間の長さになる。

・ちょうどの時刻で区切って何分と何分かを出して合わせる。

⑥定着･活用問題

　きゅう食の　始まる　時こくは　12時50分です。15分で用意をしたいと思います。何時に「いただきます」をすればいいですか。

また，きゅう食は　1時35分までです。時間はどれだけですか。

求め方を説明しましょう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・模型の時計や時刻を目盛った数直線を用いて，時刻や時間を視覚的にとらえさせる。また，時間については矢印の長さで表すなど量感をとらえさせるようにし，時刻と時間の違いを明確にしたい。

・日常生活の中での行動や経験と対応させながら，時間の動きのイメージづくりを大切にしたい。

【板書計画】